

令和2年度第2回大阪府立男女共同参画・青少年センター  
指定管理者評価委員会議事概要

開催日時：令和3年2月9日 火曜日 午後1時00分から3時00分

開催方法：ウェブ会議

出席委員：梶木 典子 神戸女子大学家政学部 教授  
永松 久代 大阪商工会議所総務企画部次長兼編集担当課長  
村田 和子 和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 教授  
養父 知美 弁護士  
吉松 宏晃 公認会計士

会議の概要

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 令和2年度の指定管理者にかかる評価について
  - (2) その他
- 3 閉会

主な意見等（○：委員（敬称略）、●：事務局、◎：指定管理者）

●事務局）-「令和2年度指定管理運営業務評価票」の構成について説明-

指定管理者入室

◎指定）-令和2年度自己評価について説明-

○委員）これまでは遠方にお住いの方のドーンセンターの利用は難しく、課題であった。今年度はコロナ禍により来館者が減った半面、来館せずに利用できる機能を拡充したため、より広い地域から利用ができるようになったことは良かったように思える。今後もそういった機能を高めてほしい。

○委員）女性への相談事業に力を入れたことは評価できる。ドーンセンターは青少年センターとしての機能もあるが、例えば中高生や学校の休校期間に子どもたちから相談などがあったのか。

◎指定）青少年の相談事業は行っていないが、青少年の居場所作りということで、感染防止対策を徹底した上で夏季自習室を開催したところ、たくさんの中高校生の方に参加いただいた。自習室があってよかったという声もある。

○委員）大変な中で工夫したことがよくわかる。今後とも来館しなくても利用できるような方法や情報発信など行っていただきたい。

○委員）財務会計の観点で主に見ていると、最終年度は府からの予算措置があったということで、これに関しては適正に行われているのかということについて、大阪府の方からコメントをいただきたい。

●事務) 今年度は休業の補填、施設維持に必要最低限の補填、およびキャンセル料の補填の3種類の補填を行った。なんとか年度末に赤字を回避できる見込。

○委員) 今後の指定期間にも関わってくることもかもしれないが、コロナウイルス感染症の様々な安全対策をしながらいかにその場を保障していくかが施設維持の課題となる。

一方で自主事業等について、コロナ禍で中止というのは一定理解ができるが、中止に至るそのプロセスで特に悩んだことや、課題となったことはあるのか。例えば、実施の方向に努めたが、障壁となったものなど。

◎指定) 未実施の事業については、ほとんどが人を集めることを目的としたものであり、当然、館のにぎわいを創出するというミッションはあるが、やはりこのコロナ禍で人を集客するということは、まず難しいと考えた。実施できる可能性についても探ってはいたが、今でこそオンライン環境というのが整ってきて、利用者各個人でも、オンラインセミナーをすれば問題なく受講できる方も増えてきたと思うが、例えば昨年の夏頃までにオンラインでフェスティバルのようなことを開催しようにも、当然施設側の環境や、参加される方の準備が難しかったところもあり、当時は実施は難しいだろうという判断になった。加えて、その事業を実施するマンパワーを確保するということがあり、この新型コロナウイルスの感染対策に多くの時間と労力を費やしたということがあり、時間的にも難しかったという判断だった。

---

#### 指定管理者退室

---

●事務) —「令和2年度指定管理運営業務施設所管課評価」について説明—

○委員) 未曾有の想定外の状況であり、令和2年度だけ数字が大きく変動しすぎていて、数字だけをもって分析できないというのが正直なところ。そのため、先ほども総括的にコメントいただいた通り、予算措置の中身については適切に行われているだろうと考えるほかない。

○委員) シングルマザーや女性への支援はこのコロナ禍の中で積極的にしていたようだが、やはり青少年に対する支援については消極的な印象を受けた。大阪市内でもかなりの子どもが居場所を失って、大変な状況だったと聞いているので、もっと積極的に支援することによって救える子どもたちも結構いるのではないかと思う。

○委員) 全体を通じて率直に言わせていただくと、青少年に対する事業が消極的なところがある。コロナ禍で女性もそうだが子どもたちの行き場がなく、DVや、あるいは経済的に困窮して、ひとり親家庭の子どもの問題の深刻さも、大きな社会課題となっている中で、事業が夏季自習室にとどまらざるを得なかったというのは率直なところ残念だと感じる。今後この青少年の利用促進というところを期待したい。

○委員) 情報ライブラリーで、インターネットを通じて書籍の検索をできるようにしたり、郵送での対応など、いろいろ工夫を行っていることは評価できる。また、ハイブリッドな形でのイベントの開催ができるよう設備・備品を拡充していることもあり、コロナ禍での対応が結果的には遠隔地の人が利用しやすいような施設にするための対応ということに繋がっており、その点は良かったことだと思う。

○委員) 説明の中で貸し会議室とライブラリーの受付を一本化したことによりライブラリー利用者

から騒音の苦情があるということだったが、例えば受付に耳栓を置くなど、そういった工夫をして多様な利用者のニーズに対応していくことが大事ではないか。耳栓に限らず、何か声があったときに、何とか工夫していこうとする姿勢というか。

○委員) 確かにいろいろな人たちのニーズにより細かく丁寧に答えていこうとすると、創意工夫の範囲で検討の余地があると考えられる。キャリアカウンセリングに来館した女性が子どもを連れていることも当然あるだろうし、青少年のための施設なので子どもの来館も想定されるので、全体の施設の運用に関しては今少し工夫の余地があるかもしれない。これはスタッフの知識や、専門性のところにも関係してくる。

○委員) 開館 26 年ということだが、大阪府としては老朽化していく施設の対応方針のようなものはあるのか。例えば施設管理の部分で長寿命化するとか、例えば P F I で外注といった方針など。

●事務) 大阪府では、建物の劣化度調査を全ての府有施設で行っている。具体的には、今後どれくらいの改修工事が必要なのか調査を行って、試算し、その上で府としての判断になる。今後は大きな改修工事が必要になってくる予定だが、それに応じた予算要求をしていく方向。

○委員) 「適正な管理業務の遂行を図ることができる能力と財政基盤」の項目

「引き続きサービスの質を低下させることがない範囲において」の部分。ここは書くのは容易いが、現実的には多くの意味合いが含まれているので、どう書くのが望ましいのか躊躇している部分でもある。コロナ禍の最中、またはアフターコロナにおける「サービスの質」が、こういったものを指すのが適切なのか、どういうものが質として重要なのかという議論は、この評価委員会はここまでだが次に向けてぜひ検討していただきたい。

○委員) 財政基盤については、補助が出る限りは、安定した財政が確保できるということになるので、これはもう B 評価としか評価しようがないと思う。それ以上のコメントができない。

○委員) それでは 5 年間の最終年度ということで、令和 3 年度からの次期指定期間に期待したいことを 1 人ずつお伺いしたい。

○委員) コロナ禍の中で却って来館と違うような形での情報発信や、あるいはハイブリットでのイベントの開催など、これまでと違うような形での館の運営が具体化してきている。遠隔地の府民についてもこのドーンセンターを利用できる一つのチャンスになってきているのではないかと思う。

もちろん来館者を増やし、にぎわいを増やすということも大事だが、それと並行して WEB を通じた発信や SNS を通じた発信、あるいは WEB を使ったようなイベントの開催など、そういった新しい形での情報発信ということについても努めていっていただきたい。

そうすると、今度は評価指標の方も、従来の来館者数や会議室の利用率だけではなく、例えば WEB のアクセス数や SNS のフォロワー数、あるいは WEB を使ったイベントであれば WEB での参加者数など、これまでと違った利用率の集計をすることが必要になってくると思うので、それをどう評価していくのかという評価手法にもやはり変化が必要になってくると思われる。

○委員) ドーンセンターの設置目的は、男女共同参画と青少年の健全育成の二つあるが、男女共同参

画については、様々な事業があり、女性活躍推進の事業が進んでいることはよくわかるが、課題となっている青少年育成事業については自習室開放以外にも、もっと充実していただきたい。

○委員) 今後も数字に関しては5年間の比較表を利用して議論されたい。当初の計画があって、そこからどう変更されてそして実績がどうあったか、というのが数字としては非常にわかりやすい、良いものになると考えている。今後も評価に適切に反映してほしい。

○委員) 青少年健全育成の部分をもっと積極的に行っていただきたい。府民参画ということで、特に青少年の場合は自分たちで何かを企画して、それを実現できる場になるのだというアピールの方が良いと考えられる。例えば青少年が自発的に企画を持ち込んだときに、ここではそれができるといような寛容な運営をお願いしたい。自分たちのやりたいことが実はできるということが伝わる場になれば、青少年が参画することの意味が、伝わる場になると思う。そういった仕組み作りなどを指定管理者と大阪府で行ってほしい。

それからもう一つは、例えばシングルマザーの人がドーンセンターに来なくても、公園で「お出かけドーンセンター」をやっているからそこでみんなで悩み共有しようといった感じで、この場所からもう一歩出て行って活動して、事業を見せるっていうのもこれからのアウトリーチの形として良いのではないかと考えられる。

○委員) 指定管理者の方々には、いつも目の前にある課題を必死になってこなされているっていう印象を強く持つ。利用者の高齢化やコロナ禍、それから災害もあり、計画の見通しが甘かったということでは評価できないような、非常に大きな社会変動が生まれている。したがって、例えば全国の女性政策、国立や他の府県に設置された女性センターの取り組み等についても調べるなど、そういったセンサーを持ちながら、研究して探求していくということがこれからの館の運営者に求められる。

また、人や予算などの面において、「支えられるドーンセンター」がますます求められていくと考えられる。その際に残念に思うのは、サポーターの制度が実施されなかったことなど、そこで頑張っている姿が見えにくいように感じられる。事業体の方が頑張っているのはわかるけれど、ドーンセンターを支えて、そこを我がものにしながら自分たちの活動ももっと発信していけるような人たちの存在や、資金が集まってくるような方策が講じられていかないままでは非常に先細りになると思う。

そういう意味でも、繰り返しになるが、府内の市町村や関係機関や団体等のネットワークを強化していくことが重要。そのためにはやはり企画力やネットワークを繋いでいくマンパワーという、一言で済まないようなものが、数とともに、質の確保をしていくことが重要ではないかなと思う。

それでは議事(1)については以上とする。

本日いただいたコメント等を含め、事務局で整理し、当委員会の指摘・提言とすることについて委員長に一任としてよろしいか。

○委員) 異議なし。

**議事2**

●事務) -今後のスケジュールおよび次期指定管理者の選定結果について説明-

以上